

## この季節に考えること

動物応用学科 3年海老名健

桜が好きでした。物心がついたときから私の家の庭には一本の桜が生えていました。花見に使われる程の大きさもなく立派とは言えなかったのですが、まだ小さかった私にはとても大きく思えました。当時はこの桜をきれいだとか好きだということは感じていなかったと思いますが、幼稚園、小学校にいくとき、私は毎朝この桜を見上げながら家をでていきました。この木はわたしの小さかった頃の思い出のかなり大きな割合を占めていて、春にはたくさんの花を眺め、夏には虫がいないかと探しまわったり、葉っぱに太陽の光が当たり葉っぱの脈とそうでない部分の色が変わっているのを見るのが好きだったことを覚えています。秋や冬には木登りをして遊んだりしました。

ある日、桜が切られることになったことを父から聞きました。毛虫がたくさん出てくるし、この桜はわたしの家と隣の家の庭の境界線にまたがって生えていて、隣の家の庭を駐車場に作り替えるということで、邪魔になったそうです。私はわけもわからず泣きました。泣きすぎて寝てしまい、次の日にハッと起きて桜が切られてはいないかと不安になったのを覚えています。幸い、まだ桜は切られていませんでした。私は桜が切られていないのを見て、安心していつものように桜の下を通り抜け学校へ登校していきました。

学校から帰る時、家の周りがいつもよりすっきりして見えました。庭をのぞきに行くと、そこには桜のかわりに一つの切り株がありました。私はその切り株を見て、小さいな、と

思いました。そう思ったら急にさびしくなったのを覚えています。

そこからはよく覚えていませんが、私は何を思ったか、切り株から木の皮の一部をはがし、玄関に飾ったそうです。あのままでは切り株もいつかなくなってしまう、飾っておけばその皮だけは残しておけると思っただけの行動だと思います

今現在、当然桜の木の皮はもうなく、切り株もいつの間にかなくなっていました。しかし私は、今でも特にこの季節に桜を見ると昔庭にあった桜の木のことを思い出します。桜が切られると聞かされた時、あんなに泣きじゃくったのは、なんで人の都合でそこに人が住む前から生きていた木を切らなければならないんだと思ったからだと思っていて、そうだったとしたらその時から私は結構生き物が好きだったのだなと考えています。



